

発展を目指す企業家のための経営指南役

No. 543

平成21年11月30日(月曜日)

## 社外重役

Selected Clients &amp; Professionals Relationship

発行)株式会社ノースアイランド  
 東京本社)東京都千代田区丸の内3-2-3 富士ビル5F  
 Tel.03-3216-2004 Fax.03-3216-0439  
 大阪支社)大阪市北区中之島3-3-23 中之島ダイビル9F  
 Tel.06-6448-2004 Fax.06-6448-0539

マーケティング

観光ビジネスの種、さらに深化  
ガイドブックにない場所や施設

観光・旅行といえはかつては「見る・食べる・遊ぶ」が定石だった。しかし、ここ最近では地元企業や団体が自ら観光資源を掘り起こし、CB(コミュニティ・ビジネス)に結びつける観光ビジネスが目を見張る。

新手は「着地型旅行」と呼ばれる地域主導の限定プランで、首都圏中心の大手旅行会社では発掘できないようなメニューを揃える。最大の特徴は、企業設備を見学するのが主目的である産業観光と違い、地域の特徴を生かした体験や交流を重視している点にある。

主な企画を挙げると、化石探掘ツアー(北海道富良野市)は、アンモナイトや二枚貝の化石を探す。青木ヶ原樹海洞窟探検ミステリーコース(山梨県富士河口湖町)は樹海や洞窟、巨木探しを探検する旅。池島炭鉱さるくプラン(長崎市)は、閉山した炭鉱の掘進現場(地下65m)までトロッコに乗り石炭掘りを体験できる。さるくは長崎弁で歩くを意味する。他にも信貴山「宿坊玉蔵院」(奈良県生駒市)の僧・尼僧修行体験(座禅や写仏体験)など、ガイドブックにはないミステリーゾーンへ足を踏み入れる冒険心と期待感、緊張感が、旅人を非日常の空間へ呼び寄せているものと思われる。

これらには話題性と歴史、由来が混在しており、旅人を精神的にも「深化」させる何かがある新たな観光客を呼び寄せているとも考えられる。主催が地元公益団体という町もあり、CBに本格的に打ち込む例が増えている。

税務会計

会計検査院、税金の徴収漏れ指摘  
徴収不足は3億円増の約9.7億円

会計検査院がこのほど公表した2008年度決算検査報告によると、各省庁や政府関係機関などの税金のムダ遣いや不正支出、経理処理の不適切などを指摘したのは717件、2,364億5,000万円にのぼった。前年度に比べ、指摘件数(昨年度981件)は264件減ったが、指摘額(同1,253億6,011万円)では約2倍となり、金額は、報告書の掲載基準が現行と同じになった1978年度以降では過去最高となった。

財務省に対しては、税金の徴収額の過不足10億2,466万円が指摘された。指摘されたのは131税務署で、納税者293人から税金を徴収するにあたり、徴収額が不足していたものが276事項9億6,789万円、徴収額が多すぎたものが17事項5,677万円だった。

前年度は、118署において徴収不足が246事項、6億7,105万円、徴収過大が6事項、677万円だったので、徴収不足が約3億円、徴収過大が5,000万円それぞれ増加したことになる。

徴収が過不足だった293事項を税目別にみると、「法人税」が143事項(うち徴収過大4事項)でもっとも多く、以下、「申告所得税」84事項(同5事項)、「相続・贈与税」27事項(同4事項)、「消費税」20事項(同4事項)、「源泉所得税」2事項となっている。

これらの徴収不足額や徴収過大額があった293事項については、会計検査院の指摘後、すべて徴収決定または支払決定の措置がとられている。

今週のキーワード

着地型旅行

地元の企業などが主催する現地着・発の観光・旅行のこと。首都圏等の大手旅行会社は「発地型旅行」(例・東京発着)で、前者は現地で発着を完了すること。従来の大型パック型旅行に比べ個人嗜好中心の主体性が核となっている。JR等のミステリー列車もこの一種。今後の旅行マーケティングは、マスからミニへ乗り換える年齢層の取り込みにかかっているとみられる。07年の旅行業法改正で地元の中小旅行会社が「地元範囲内」でパックツアーを組めることになった。